

社会－２（第３学年） 話し合いにより互いの考えを発展させる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 お店のしごととわたしたちの暮らし ～なぞがいっぱいお店屋さんとのものねだん～

2 単元の目標

身近な商店街やスーパーマーケットなどを見学したり聞き取り調査したりして調べ、販売者は消費者の消費活動を反映させて、立地場所や価格を考えたり、販売方法を工夫したりしていることを考えるようにする。

3 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

地域の販売の仕事の様子に関心をもち、それを意欲的に調べ、地域の販売の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。

【社会的な思考・判断・表現】

販売者側の販売の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に説明している。

【観察・資料活用の技能】

商店街やスーパーマーケットの仕事の様子を的確に見学、調査したり、資料から必要な情報を集めて読み取ったりカードや地図にまとめたりしている。

【社会的事象についての知識・理解】

販売者は、消費者の消費活動を反映させて、立地場所や価格を考えたり、販売方法を工夫したりしていることを理解している。

4 教材

本単元で扱う中心市街地などでは、商業機能の空洞化が進んでいる。それは、本校近くの商店街に限らず全国でも同様に見られる現象である。空洞化の理由は、モータリゼーションの影響で郊外の宅地開発や商業集積が進んでおり、消費者が中心商店街から郊外へ奪われているためである。また、消費者の買い物のスタイルがワンストップショッピングのスタイルに変化したことも原因であると考えられる。さらに、郊外への人口流出による中心市街地の人口減少や景気の低成長による消費抑制も少なからず影響していると考えられる。

このような消費者の生活スタイルの変化は、商業の空洞化を招いただけではない。店舗間の販売競争もこれらの変化の影響を受けており、店舗は、サービス・価格・立地条件など様々な工夫や努力を行っている。また、これらの影響は、児童の日々の生活にも直結していることであり、実感させることが容易である。そこで、本単元では身近なスーパーマーケット、商店街、郊外のショッピングセンターを取り上げ、販売者の側の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え、販売者の側の工夫の意味を考えることができるようにした。

5 主な学習活動

(1) 単元の指導計画（全13時間）

学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
<p>○お店で働く人々の仕事に関心をもち、学習問題をつくり、商店街やスーパーマーケットなどの見学計画を立てる。(1)</p> <p>○グループごとに見学し、仕事の様子や販売の工夫、立地場所などについて調べる。(3)</p> <p>○見学したことを発見カードや地図にまとめる。(4)</p> <p>○スーパーマーケットの工夫について、消費者の思いと関連付けて考え、まとめる。(1)</p> <p>○ものの値段の決め方について、事例を基に考え理解する。(1)</p> <p>○商店街の工夫について、消費者の思いと関連付けて考え、まとめる。(1)</p> <p>○郊外の家電販売店の立地とお客さんを呼ぶ工夫について考え、まとめる。(1) 本時</p> <p>○商店街の空店舗問題の原因について考え、まとめる。(1)</p>	<p>・調べたことを地図にまとめる活動を通して、お店の種類や分布などに気付かせ、疑問点や調べてみたいことを発言させる。</p> <p>・工夫と願いを並べて板書し、結び付けて分かったことをノートに記述させる。</p> <p>・事例を通して、児童に実感を伴った言葉で説明させたり具体的な場面を想起させたりする。</p> <p>・学習したことを活用し、自分の言葉で学んだことをまとめ、簡単な図を使って説明させる。</p>

(2) 本時の学習 (12/13)

- ①目標 郊外に家電量販店が集中して出店しているのは、お客さんが見比べる手間を減らすことで集客を図る工夫であることが分かるようにする。
- ②展開
 - 家電量販店はどんなところにお店を出しているのか、予想する。
 - 予想をもとに話し合う。
 - ライバル店が近いことがよいことになるという、予想との矛盾点に気付かせ、店長さんになったつもりで考える。
 - 販売者と消費者の役割演技を通して、自分の考えをノートにまとめ発表する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第3学年及び第4学年の内容(2)では、「地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする」、「ア地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること」「イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」と示されている。また、第3の指導計画作成上の配慮事項として「観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること」が示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手にも分かるように表現することができるようにする」ことが示されている。

本実践では、販売者の側の工夫を消費者の側の工夫と関連付けて考え、表現できるようにすることを重視しようと考えた。しかし、児童は「私たちはお店で売っているものを買っている」「お店の人たちは、私たちお客のことを考えて売っている」といった表面的な関連付けで終わってしまうことが多い。それは、調べたり考えたりしなくても、児童が始めから知っているため、思考・判断したことの表現としては、十分なものとならないからである。そこで本事例では、「お店の立地」という新しい視点を取り入れ、販売者の側の工夫と人々の消費活動との密接な関連を考えさせるようにした。

【言語活動の充実の工夫】 —役割演技などを用いて立場を決めて考え話し合う—

本時では、これまで習得した知識だけでは説明がつかない事実を児童に示すことで、新しい知識の活用が生まれ、社会的事象相互の関連を考えさせることをねらった。

児童は、消費者の立場で購買という経済活動をとらえることが比較的容易であるため、本時では販売者の立場で販売の工夫をとらえさせることに焦点化し、次の二つの手だてを考えた。

- 店長の立場で立地条件と集客力や売り上げ高などを予想させた。
- 販売者と消費者のやりとりを役割演技で行わせた。

店長の立場になって考える活動や役割演技は、第3学年の児童にとって、以下の点で有効であった。

- ①児童の興味・関心の継続を図ることができた。
- ②具体的な場面を設定することで、共通の条件の下で話し合いをさせることができた。
- ③児童に共有させた体験と結び付けて言語化させることで、お互いの発言内容を共通に理解させることができた。

このように、みんなが共通の条件の下で、同業種の店舗が集中して立地している工夫の意図を考えるという「場面設定」と「立場」をはっきりさせることで、「どの立場でどんな場面を想定して話しているのか分からなくなる」という児童の混乱を招かずに話し合いをさせることができた。そのため、児童一人一人が具体的な例を挙げながら自分の言葉で説明する活動につながった。

